



©Yuki Asada

## みんなが幸せになれるカード

茶色のダンボール紙が、かわいいカードに大変身！フィリピンのイロイロ州から届いたメッセージカード。その生産を手掛けるのは、この地で暮らす障害を持つ人々だ。

社会のさまざまなバリアにはばまれ、世の中に散りばめられている“チャンス”をつかむことができない。自身も足に障害を持つ青年海外協力隊の曾田夏記さんは、「みんなが平等に働ける場を作りたい」と、沖縄出身のアーティスト儀間朝龍さんと連携。障害者の自立支援の一環として、メッセージカードの制作に取り組むことに。その材料にはなんと“ダンボール”が使われている。

紙をすく、切る、イラストを描く…。それ

ぞれの得意分野を生かして役割を分担。ダンボールをリサイクルすることでコストを抑えられ、その分、人件費に充てることができる。

「仲間と一緒に働く喜びを感じて、みんな生き生きとしてきました」と曾田さん。重度の障害があるメンバーもグループ活動に積極的に参加するように。家や社会で孤立しがちな彼らの“居場所”にもなっている。曾田さんの呼び掛けで、地元のお土産物屋やマニラの日本企業からの注文も増えてきた。

世界に一枚しかないリサイクルのカード。フィリピンの人々の幸せな思いが詰まったこのカードに、大切な人へのメッセージをつづってみよう。



儀間さん(左端)からカードづくりのノウハウを直接学び、ものづくりの意欲が増した

★メッセージカードを10人にプレゼント!→詳細は38ページへ

★日本で販売パートナーとなってくださるお店や団体を募集中。問い合わせはnatsuki.soda@gmail.comまで

